

令和3年度 学校評価最終報告

1 達成目標及び検証

教職員アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの各項目で、肯定的な回答（1+2）の合計85%以上を目指す

2 回答の選択項目

	教職員	保護者	生徒
1	よく当てはまる	よく当てはまる	当てはまる
2	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる
3	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない
4	ほとんど当てはまらない	ほとんど当てはまらない	当てはまらない

3 評価基準

肯定的な回答（1+2）の割合による評価の基準

- A：85%以上～100%（継続）
- B：70%以上～85%未満（継続・改善）
- C：50%以上～70%未満（要改善）
- D：50%未満（至急対策検討）

（１）子どもたちが安全・安心に学べる学校					
本年度の努力事項			具体的な取組		
① 学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ② 生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ③ 教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。			○行事や体験活動等の実施の際に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。 ○毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。 ○適時的に訓練を実施し、危機管理マニュアルの理解と改善を行う。		
		質問内容	判定		R3 中間
教職員	①	目指す姿を達成するための教育活動を実践している。	A	100.0%	A 100.0%
	③	生徒の様子の変化にも気付くように意識している。	A	100.0%	A 100.0%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	100.0%	A 100.0%
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	100.0%	A 100.0%
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	A	92.3%	B 80.0%
生徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	B	82.0%	A 86.3%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	97.8%	A 95.7%
保護者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	A	86.5%	A 94.1%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	90.1%	A 92.6%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	A	86.5%	B 84.6%
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	86.5%	A 86.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	B	81.6%	A 85.3%
判定基準	A（肯定回答 85%以上）、B（70%以上）、C（50%以上）、D（50%未満）				

【考察・改善】

◎奥能登で小規模な地震が多く発生したため、地震対応の避難訓練を中心に、非常災害時の安全について考えさせる機会が多くあり、職員の指導の意識が高まった。

◎いじめアンケートやQ Uテスト（学級の分析ツール）などを行い、いじめや不登校の未然防止に努めている。教育相談週間では、希望した教員と面談することで悩みを話しやすくするなど、相談環境を工夫して行うことができた。

△学校は、いじめや不登校の未然防止に力を入れ、早期発見・早期対応を行っているが、中間報告と同様に対応が不十分と感じている保護者がいる。関係生徒・保護者と面談し、個別対応班で協議、必要に応じて医療機関や関係機関と生徒・保護者との面談を設定する等、解決に向けて取り組んでいる。

【参考】いじめ認知件数 8件（中間報告後1人増加、R2より3件）

不登校生徒数 6人（同4人増加、3月1日現在で3人が長期欠席）

(2) 生徒の確かな学びを保障する学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 生徒一人一台端末を積極的に活用し、個別最適化された教育の実現に努める。			○積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。			
② 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。			○生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。			
③ 体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科横断的な学びを推進する。			○体験活動等の目的やねらいを明確にし、活動後にその成果を実感させる。			
		質問内容	判定		R3 中間	
教職員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	92.3%	A	100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	91.7%	A	93.3%
	⑨	個別最適化された学びの実現に向けて工夫している。	A	91.7%	A	92.9%
	⑩	授業では、積極的に学び合い活動を取り入れている。	B	83.3%	A	93.3%
	⑪	学び合い活動で、生徒は学び楽しさを感じている。	B	83.3%	A	86.7%
	⑫	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	B	75.0%	A	86.7%
	⑬	自然や社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	B	83.3%	A	92.9%
	⑭	授業では、生徒一人一台端末を積極的に活用している。	B	75.0%	C	53.3%
	⑮	体験学習・総合的な学習の時間で、教科横断的な学びを関連づけている。	C	58.3%	A	93.3%
	⑯	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	100.0%	A	100.0%
⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	B	75.0%	A	86.7%	
生徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	94.2%	A	91.4%
	A2	授業では、自分の考えを発表する場面が与えられていると思う。	A	95.7%	A	89.2%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	96.4%	A	95.0%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	96.4%	A	96.4%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると思う。	B	81.3%	A	85.6%
	A6	授業の自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると思う。	B	77.0%	B	79.9%
	A7	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	A	91.4%	A	87.8%
	A8	学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	97.8%	A	94.2%
保護者	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	80.1%	B	82.4%
	⑦	お子さんは、毎日1時間以上の家庭学習をしている。	C	65.2%	C	61.0%
	⑨	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノー（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	47.5%	D	42.6%
	⑩	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	74.5%	B	73.5%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

△授業においては、感染対策を意識しながら、通常の授業を展開できている。今年度の取組として、「生徒が自分の考えを持ち、それを伝え合い学び合う活動」を取り入れることを共通実践し、2学期は「伝え合う」ことを目標とした。しかし、「自分の考えを持つ」ことが不十分であるため、「伝え合う」ことも不十分であった。そこで、3学期の取組として、「課題に対しての自分の考え」、「学び合いを通しての自分の考え」、「振り返り」など、「文章で考えを書く」場面を設定して共通実践している。

○生徒の1人1台の端末の活用について、定期的に校内研修を行い、日々の実践を交流している。教師が積極的に活用することで、授業中の生徒の活用も増えてきた。今後は、より効果的な活用について共通実践を行っていく。

△平日の家庭学習は、2時間以上取り組んでいる生徒の割合は20.3%（7月比+8.7%）と増加したが、30分未満も18.8%（7月比+8.6%）に増加した。逆に、家庭でのインターネット2時間以上利用は35.7%（同+1.0%）、ゲーム2時間以上利用は22.2%（同+2.7%）と高くなっている。家庭学習については、計画的に課題を与え、取り組ませている。また、ネットの利用については、正しい使い方やルール、モラル、長時間の利用による影響など、学級活動の時間を利用して学習した。

☆評価問題の結果（2年生を対象に12月実施）

12月に石川県内の2年生を対象に行われた評価問題の結果は、県平均と比較して同程度、もしくは、やや上回るという結果であった。しかし、結果の分析からは、「各教科の基礎・基本の定着が不十分である」、「根拠や理由を示した説明や用語を用いた説明など、文章を書く力が不足している」ことが分かった。この結果を踏まえ、前述の3学期の「文章で考えを書く」場面の設定の取組を設定した。

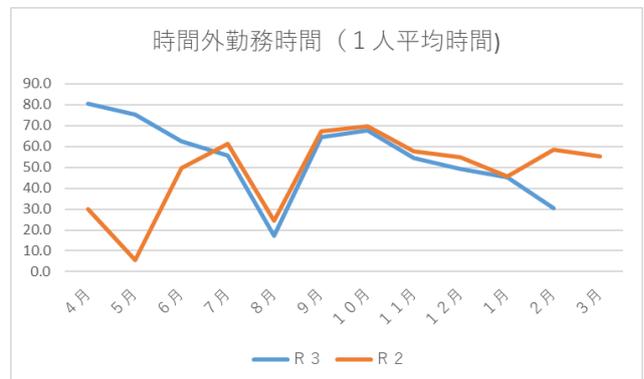
	国 語	数 学	理 科
県平均との差	- 2 %以内	+ 5 %以内	+ 5 %以内

(3) 教師の研修意欲が高い学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。 ② 人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。 ③ 日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。			○日々の業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。 ○授業中、生徒を指名する際は呼び捨てにしない。 ○報告・協議事項は事前に紙またはサーバー内で文書化し、周知する。			
質問内容			判定		R3 中間	
教職員	⑱	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	A	100.0%	A	93.3%
	⑲	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	91.7%	A	100.0%
	⑳	授業中、生徒を指名するときは呼び捨てにしていない。	A	91.7%	B	80.0%
	㉑	報告・協議事項は、全員に周知されている。	A	96.7%	A	86.7%
生徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	82.7%	B	75.5%
	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	A	89.2%	A	88.5%
保護者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	86.5%	A	86.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	B	81.6%	A	85.3%
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	80.1%	B	82.4%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

◎中間報告以降の9月から1月までの平均時間外勤務時間は、前年度より一人当たり月6.9時間の減少となった。20時までの退校、勤務の効率化など、時間の有効活用を意識する教員が増えた。

《職員の平均時間外勤務時間》



◎生徒一人一人に役割を与え、挑戦させ、振り返りを繰り返すことで、生徒のやる気を伸ばし、自己肯定感が高まるようにした。3学期は、次年度に向けて、よりよい学校づくりを目指し、生徒会が企画・運営した取組を実践している。

(4) 地域社会の一員として信頼される学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。			○月2回以上、学校HPを更新する。			
② 学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。			○学校評価結果を学校HPで公開する。			
③ 地域人材や施設を積極的に活用し、社会に開かれた教育課程の構築を進める。			○各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。			
質問内容			判定		R3 中間	
教職員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	C	46.2%	B	73.3%
	②③	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	C	41.7%	B	73.3%
	②③	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	C	69.2%	B	80.0%
生徒	B13	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	B	71.9%	B	75.5%
保護者	⑪	教職員は、保護者との連携を密にしている。	B	78.0%	B	72.8%
	⑫	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	A	91.5%	A	90.4%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

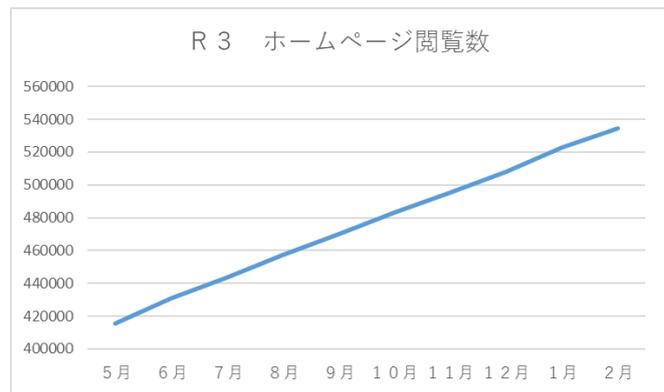
【考察・改善】

◎教職員の「情報発信」のアンケートは下がったが、ホームページは随時更新し、積極的に情報を公開している。今年度は1日平均440件の閲覧数があった。

△新型コロナウイルス感染症対策のため、地域との交流や海洋教育は実施できないものがほとんどだった。全校対象の平和・人権学習、3年生の有権者教育や租税教室、1年生の職業人講話などは外部人材を活用して取り組むことができた。次年度は、リモートによる活動など、地域とのかかわり方を工夫していきたい。

△学校公開やPTA活動は行うことができなかった。文化祭も無観客とし、オンライン配信やケーブルテレビでの放送などで対応した。次年度は、新型コロナウイルス感染症対策をとりながらできる取組を模索し、工夫・改善を行いたい。

《HP閲覧数の推移》



《人権・平和学習》



《有権者教育》



《職業人講話》



能都中学校 第2回教職員アンケート 令和4年2月実施

下記の質問について、あてはまる数に○を付けてください。
 1:よくあてはまる 2:どちらかといえばあてはまる
 3:どちらかといえばあてはまらない 4:ほとんどあてはまらない

質問項目		1	2	3	4	1+2	7月
①	目指す姿を達成するための教育活動を実践している。	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	30.8%	61.5%	7.7%	0.0%	92.3%	100.0%
③	生徒の様子のおこやかな変化にも気付くように意識している。	53.8%	46.2%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	15.4%	84.6%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	46.2%	53.8%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	15.4%	76.9%	7.7%	0.0%	92.3%	80.0%
⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	7.7%	38.5%	46.2%	7.7%	46.2%	73.3%
⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%	91.7%	93.3%
⑨	個別最適化された学びの実現に向けて工夫している。	16.7%	75.0%	8.3%	0.0%	91.7%	92.9%
⑩	授業では、積極的に学び合い活動を取り入れている。	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	83.3%	93.3%
⑪	学び合い活動で、生徒は学び楽しさを感じている。	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	83.3%	86.7%
⑫	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	75.0%	86.7%
⑬	自然や社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	83.3%	92.9%
⑭	授業では、生徒一人一台端末を積極的に活用している。	33.3%	41.7%	25.0%	0.0%	75.0%	53.3%
⑮	体験学習・総合的な学習の時間で、教科横断的な学びを関連づけている。	16.7%	41.7%	33.3%	8.3%	58.3%	93.3%
⑯	授業の約束4か条を意識し、指導している。	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	75.0%	86.7%
⑱	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	76.9%	23.1%	0.0%	0.0%	100.0%	93.3%
⑲	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	8.3%	83.3%	8.3%	0.0%	91.7%	100.0%
⑳	授業中、生徒を指名するときは呼び捨てにしていない。	75.0%	16.7%	0.0%	8.3%	91.7%	80.0%
㉑	報告・協議事項は、全員に周知されている。	7.7%	69.2%	7.7%	15.4%	76.9%	86.7%
㉒	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	8.3%	33.3%	33.3%	25.0%	41.7%	73.3%
㉓	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	23.1%	46.2%	30.8%	0.0%	69.2%	80.0%

令和3年度 保護者アンケート(第2回) 令和4年2月実施

下記の質問について、 1・2・3・4 でお答えください。

- 1 : よくあてはまる 2 : どちらかといえばあてはまる
 3 : どちらかといえばあてはまらない 4 : ほとんどあてはまらない

	質 問 項 目	1	2	3	4	1+2 肯定	7月 肯定
1	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	39.7%	46.8%	10.6%	2.8%	86.5%	94.1%
2	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	41.8%	48.2%	9.2%	0.0%	90.1%	92.6%
3	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	33.3%	53.2%	9.9%	2.8%	86.5%	84.6%
4	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	39.7%	46.8%	12.1%	1.4%	86.5%	86.0%
5	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	36.2%	45.4%	13.5%	5.0%	81.6%	85.3%
6	授業はわかりやすいと言っている。	24.8%	55.3%	17.7%	0.7%	80.1%	82.4%
7	お子さんは、毎日1時間以上の家庭学習をしている。	24.8%	40.4%	22.7%	11.3%	65.2%	61.0%
8	お子さんは、毎日決まった時間に起床・就寝している。	39.7%	39.7%	14.2%	5.7%	79.4%	74.3%
9	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノ（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	18.4%	29.1%	30.5%	22.0%	47.5%	42.6%
10	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	29.1%	45.4%	17.7%	7.8%	74.5%	73.5%
11	教職員は、保護者との連携を密にしている。	24.8%	53.2%	18.4%	3.5%	78.0%	72.8%
12	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	34.0%	57.4%	7.1%	1.4%	91.5%	90.4%
13	お子さんの家庭でのSNSの利用時間は、 4:3時間以上 3:2時間以上3時間未満 2:1時間以上2時間未満 1:1時間未満	39.7%	20.6%	22.0%	17.7%	60.3%	45.6%

(1)「子どもたちが安全・安心に学べる学校」について

- ▲いじめ認知件数・不登校生徒数が増加していること、対応が不十分と感じている保護者がいることが、非常に気になります。コロナ感染症対応にも保護者からの不満が聞こえてきます。
- ▲いじめ認知件数及び不登校生徒数の増加が気になります。スクールカウンセラー（サポートスタッフ）との関わり具合はどうか。
- ▲いじめに関して、生徒の判断基準がAとなっているが、件数は増加しているところが気になりました。学校側もいろいろな取り組みをされていると思いますが、保護者との距離を近づけるような取り組みも必要になってくると思います。

⇒いじめ認知件数は、アンケート等で訴えのあったものについて聞き取りをし、状況に応じて関係生徒への指導、経過観察を行っています。現時点では委員会への報告が8件ですが、5件については一定の期間訴えが無い場合、解消していると考えられますが、万が一に備えて、経過観察を行っています。残りの3件についても訴えはありませんが、発見してからの経過時間が短いため継続中と考え、定期的に生徒の面談を行ったり、保護者との連絡で様子を聴きとったりして対応しています。

⇒不登校生徒は6名で、今年度になって4名増加し、6名の報告でしたが、3名（3年生）は解消済みで、高校受検、卒業式にも参加しました。継続中のAさん（1年生）は欠席が多いが、連続した欠席は少ない状況です。また、Bさん（2年生）は1月中旬から欠席が続いていますが、3月16日に相談室登校できました。他の生徒との交流に難色を示している状況です。医療機関にもかかっており、相談員やカウンセラーとの面談も予定しています。Cさん（1年生）も医療機関にかかっており、腹痛や頭痛、めまいなどを訴えているため、医者からも治るまで登校しない方が良いと言われ、欠席しています。保護者から電話連絡を控えるように要望があり、保護者との連絡は毎日行っています。

(2)「生徒の確かな学びを保証する学校」について

- ▲文章を書く力が不足しているという結果分析のようですが、基礎基本の定着がしっかり出来ていれば文章を書く力も向上します。まずは基礎基本の定着を確実にしてください。

⇒基礎基本は、どの教科にも重要であると認識しており、授業以外でも能都中検定や放課後学習（10分程度）を行い、基礎基本の定着に努めています。

- ▲教職員アンケートの⑩～⑬がAからB判定については、⑩学び合い活動が少し行き詰まり感から⑪～⑬に表れているのではないのでしょうか。

⇒コロナ感染症予防の観点から、グループ活動など、密になる学習活動の制限を余儀なくされました。今年度は、タブレットを活用した学習について研究実践を行ってきましたが、次年度はタブレットを活用しながら、どのような学び合いができるかを研究していきます。

▲子供たちの環境にインターネットは必要な状況になってきている。家庭でも制限を設けるなど、何かしらの対応・取り組みが必要と感じている。その際、学校側との情報共有も必要になると感じている。

⇒今年度は、睡眠講演会を行い、睡眠の大切さを考えさせました。また、12月～2月には、ネットやSNSの問題点、ルールやモラルについても学習しました。生徒だけでなく、保護者を対象とした学習会も行いたいと考えています。

(3)「教師の研修意欲が高い学校」について

○先生方の時間外勤務時間が減少し、勤務の効率化が見られるようになったのは大変喜ばしいことです。一人一人の生徒がやる気を伸ばしてやれるのは教師の力量にかかっています。期待しています。

▲生徒が「自分にはよいところがあると思う」という気持ちが向上するよう一人一人をしっかりと見つめ、内に秘め、出し切れていない面も含めて対応して行ってほしい。その際、保護者にも話を聞くなど、関りを多く持っていったらと感じます。

⇒行事や学級において、生徒一人一人が活躍する場面を多くし、達成感や充実感を持たせることで自己有用感をたかめるようにしている。学校・学年行事は生徒の成長に欠かせないものであるが、コロナ禍で行事の中止が大きな要因と考えられる。次年度も同様な状態が考えられるので、コロナ禍でも取り組める行事を再検討して取り組みたい。

(4)「地域社会の一員として信頼される学校」について

▲社会全体が異常事態の時に、地域との交流は難しいとは思いますが、こういう中でこそ出来ることを工夫してみてください。

▲地域の人材・教材を取り入れた授業は、工夫しながら積極的に対応されるよう望みます。

⇒(3)と同様に、行事や活動を工夫して行います。

▲教職員アンケートの⑦のC判定はコロナ疲れでしょうか。

▲今の生徒たちは、あいさつが出来ていないように感じるので、今後はきちんとあいさつが出来るように取り組んでほしい。そうすることで、地域とのつながりも増えていくと思います。

⇒コロナ禍では、大声を出さないように指導しているため、朝のあいさつ運動を行った時でも指導が十分ではなかった。声を出すことよりも態度で示せるような方法などを考えたい。

(5) その他

▲生徒アンケートのB7「就寝時間が23時～24時」が増えているのが気になります。

⇒学校側も気になっているところです。就寝時間が遅くなり、ネットやゲームの時間が増え、学習時間が減るといった好ましくない状態です。学校では、睡眠の重要性やネットの正しい使い方などを学習してきました。学校の指導だけでは限界があるので、家庭と協力して取り組んでいきたいと考えています。

▲生徒のコロナ感染がなかなか収まらないのが心配です。

⇒学校として、感染防止対策は十分に行ってきましたが、感染者が出てしまいました。感染拡大のために、関係機関との協議の結果、濃厚接触者にあたる生徒・職員は確認されず、臨時休業と学年閉鎖で対応し、何とか収まりました。再度感染者が出ないように、引き続き感染防止対策を徹底していきます。

▲先生、保護者、子供たち等のお互いの対話（本音の話し合い）が不足しているのではないかと思います。そのことでぶつかり合うこともあると思いますが、思いを口に出すことで、解決の糸口になるかと思います。難しいとは思いますが、そういう場をもっと多く取ればいいと思います。

⇒今年度は、PTA活動を全く行っていないため、先生と保護者の交流がほとんどできませんでした。PTA活動を一緒に行うことで、対話する場面が増え、本音を聞く機会も増えると考えられます。次年度は、小さな規模で活動できるPTA活動を工夫して行いたいと考えています。

○コロナ対応など大変だと思いますが、これからもよろしくお願いします。